

## 「終わりに近づくときのしるし（1）」

マルコの福音書 13:1~14

### はじめに

新しい世界、新しい時代である「神の国」が来るために、今のこの世界、この時代は古いものとして、やがて必ず終わります。聖書にはいたるところにその事実がどのようにして起こるのが示されているのですが、多くの場合それは何か他の出来事のような形で「型」たとえのように表されており、見出すことが難しいのですが、今日の箇所であるマルコ 13 章は、誰が見ても、おそらく神を信じない人が見ても、これが世界の終わりについて語られているものであることが分かるような内容となっています。この 13 章はイエシュアが四人の弟子にのみ話されたものですが、その最後 13:37 には「わたしがあなたがたに言っていることは、すべての人に言っているのです。」と言っておられます。なぜならこの「終わり」はすべての人の上に起こるからです。ではそれは一体どのようにして起こるのか、早速見てまいりましょう。

### 1. 宮

マルコの福音書【新改訳 2017】

13:1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子の一人がイエスに言った。「先生、ご覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」

13:2 すると、イエスは彼に言われた。「この大きな建物を見ているのですか。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。」

イエシュアは「宮」すなわちエルサレムの神殿を指して、その崩壊を予告、預言されました。そしてそれは確かに成就し、今日の私たちもこの事実を確認することができます。2021 年現在、イスラエルの首都エルサレムに神殿は存在しません。その痕跡、その断片さえも残ってはいません。具体的には A.D66~73 年に起こったユダヤ戦争において、ローマ帝国軍によってそれは破壊されました。彼らは神殿に火を放ったため、その内装や装飾品を覆っていた金が溶け、外壁や床の石と石の隙間にそれは流れ込みました。兵士たちはその隙間に入った金欲しさのあまり、神殿のすべての石という石をばらばらに崩し、みな切り離したということです。ここに「どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません」と言われたイエシュアの御言葉が全くその通りに成就しました。

### 2. 感わす者

マルコの福音書【新改訳 2017】

13:3 イエスがオリーブ山で宮に向かって座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに尋ねた。

13:4 「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。また、それらがすべて終わりに近づくときのしるしは、どのようなものですか。」

13:5 それで、イエスは彼らに話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。

13:6 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそ、その者だ』と言って、多くの人を惑わします。

今日、世界には多くの教え、宗教が存在し、その中には「わたしの名を名乗る者」自称イエス・キリストが多く存在します。残念なことに教会、クリスチャンの集まりの中にさえそれは存在します。イエシュアはこれらの事実を指して語っておられるとも考えられますが、先ほどのイエシュアの預言が「宮」についてのものであったということ、そしてここでもまたイエシュアが「宮に向かって」おられたという記述があることを考えますと、この惑わす者とはエルサレムの神殿に関わる者であり、何よりイスラエルの民、ユダヤ人を惑わし、彼らを欺いて、自分こそがメシア「その者だ」と信じさせる存在について語っておられると考えられます。世界の歴史、また今日においても多くの王、支配者、指導者と呼ばれるような者が存在しますが、ユダヤ人たちのメシアと自称し、そしてエルサレムの神殿を回復させた者は未だ一人もいません。つまりこの預言は今日もまだ成就していません。しかし「ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません」と預言され、それが全くその通りに成就したイエシュアのこの御言葉もやがて必ず成就します。このように、ここでイエシュアが語っておられる「多くの人を惑わす者」とは、エルサレムの神殿に関わる者、すなわち自分をメシアとし、この宮において自分を礼拝させる者、宮を奪う者のことであると考えられます。

### 3. 戦争、地震、飢饉

マルコの福音書【新改訳 2017】

13:7 また、戦争や戦争のうわさを聞いても、うろたえてはいけません。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。

13:8 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで地震があり、飢饉も起こるからです。これらのことは産みの苦しみの始まりです。

またイエシュアは「すべて終わりに近づくときのしるし」として「戦争」「地震」「飢饉」が起こることをここに予告しておられますが、一般的な概念と世界的な規模でこれらを捉えることもできますが、先ほどと同様、エルサレムの神殿についてのものとして捉え、さらにこれらの持つ本来の意味で捉えるならば、次のように考えることができます。

#### ① 戦争

聖書に記された最初の戦争、戦い、それは創世記 14 章に記されています。

創世記【新改訳 2017】

14:1 さて、シニアルの王アマラフェル、エラサル王アルヨク、エラム王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアルの時代のことである。

14:2 これらの王たちは、ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アダマの王シンアブ、ツェボイムの王シエムエベル、ベラすなわちツォアルの王と戦った。

14:4 彼らは十二年間ケドルラオメルに仕えていたが、十三年目に背いたのである。

多くの人名が記されており、混乱されるかも知れませんが、要するにこの戦争は「仕えていたが…背いた」  
というものであり「背信、裏切り、反逆」とも言い換えられるものです。

## ② 地震と飢饉

この二つは本来、同じような状況、状態を指し示す言葉と考えられます。

士師記【新改訳 2017】

5:4 【主】よ。あなたがセイルから出て、エドムの野から進んで行かれたとき、大地は揺れ、天も滴り、  
密雲も水を滴らせました。

5:5 山々は【主】の前に流れ去りました。

創世記【新改訳 2017】

12:10 その地に飢饉が起こったので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下って行った。そ  
の地の飢饉が激しかったからである。

上記の二か所は地震と飢饉のそれぞれの言葉の最初の言及ですが、どちらもある大きな脅威から「逃げる、  
追われる」という状態、状況を指し示す言葉であると考えられます。エルサレムの神殿において、「背信、  
裏切り」を意味する「戦争」、そして「逃げる、追われる」結果をもたらす「地震」と「飢饉」これら三つ  
の言葉のもつその本来の意味、状態をもたらす出来事は、以下の預言の成就であると考えられます。

Ⅱテサロニケ人への手紙Ⅱ【新改訳 2017】

2:3 どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち  
滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。

2:4 不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こ  
そ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。

神への「背教」「対抗」が獣、反キリストとも呼ばれる「不法の者、すなわち滅びの子」によって起こりま  
す。その場所が「宮」エルサレムの神殿であること、そしてその時ユダヤ人たちはみなそこから逃げなけ  
ればならないこと、追われることをイエシュアは予見して弟子たちに教えておられるのだと考えられます。

このように、イエシュアは世界的な、全時代的な規模で語りながらも、その中にエルサレムの神殿とい  
う非常に具体的で限定的、究極的な場所についての神のご計画を言い表しておられるのです。

## 4. すでにと未だ

マルコの福音書【新改訳 2017】

13:9 あなたがたは用心していなさい。人々はあなたがたを地方法院に引き渡します。あなたがたは、  
会堂で打ちたたかれ、わたしのために、総督たちや王たちの前に立たされます。そのようにして彼らに  
証しするのです。

13:10 まず福音が、すべての民族に宣べ伝えられなければなりません。

13:11 人々があなたがたを捕らえて引き渡すとき、何を話そうかと、前もって心配するのはやめなさい。ただ、そのときあなたがたに与えられることを話さない。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。

13:12 また、兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に逆らって立ち、死に至らせます。

13:13 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。

13:14 『荒らす忌まわしいもの』が、立ってはならない所に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。

上記の箇所は先ほどの1～8節までの記述と同じ形式となっています。それはすなわち、この記述の「読者」にとってすでに成就した預言と、これから後に起こることの預言とが並べて記されているということです。1～8節では神殿の崩壊がすでに起こった預言として、そしてここでは使徒の働きを中心に記された福音宣教の様子が預言されているのです。新約聖書がまだなく、旧約聖書も手軽に読めなかった時代、イエシュアの弟子たちはまさに「聖霊」によって福音を語りました。そして「福音が、すべての民族に宣べ伝えられ」という預言は、今日の私たちの上に確かに成就しています。そして12節「兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に逆らって立ち」とは8節の「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり」という記述のパラレリズム、言い換えによる強調表現であることは明らかです。さらに「戦争」「地震」「飢饉」とたとえられていたエルサレムの神殿と反キリストについての預言が、14節では『荒らす忌まわしいもの』が、立ってはならない所に立っているのを見たら…ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。」と具体的にはっきりと語られています。このように聖書は、すでに成就した預言を記し、未だ成就していない預言のその信ぴょう性、確実性を強調しているのです。

## 5. 気をつけなさい

獣、反キリスト「荒らす忌まわしいもの」の出現、そして彼がエルサレムの神殿においてメシアを名乗る時こそ「すべて終わりに近づくときのしるし」です。昨今のインターネットの普及により、世界の情報化は劇的に進歩しました。今や地球上のすべての人が、同時に同じものを見、同じ声を聞くことができる状況が整いつつあるということです。それはオリンピックのためではなく、この「すべて終わりに近づくときのしるし」をすべての人が、一瞬の時差もなく目撃できるように、そのために神がなされたことだと私は考えています。しかし私たちを惑わすものもそこにはあることを知っておいてください。これもまた聖書に記されているとおりの現実です。ですから「惑わされないように気をつけなさい」とイエシュアは言われました。惑わされないようにする唯一の方法、それはもちろんこの聖書に記された神のご計画に、その終わり、結末、完成に目をとめることです。そしてそれを理解し、それをしっかりと握ることです。イエシュアが言われた「気をつけなさい」とは、私たちが今聞いているこの聖書の福音を、奪われないよう、失わないよう、忘れないようにしなさい、これを守りなさいという意味なのです。私たちは今そのためにこうして毎週集められているのだということをご覚悟ください。

ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合ひましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。(ヘブル 10:25)